

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-214402

(43) 公開日 平成4年(1992) 8月5日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>  
A 4 1 G 3/00

識別記号 庁内整理番号  
F 2119-3B  
K 2119-3B

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-34202  
実願昭63-119166の変更  
(22) 出願日 昭和63年(1988) 9月8日

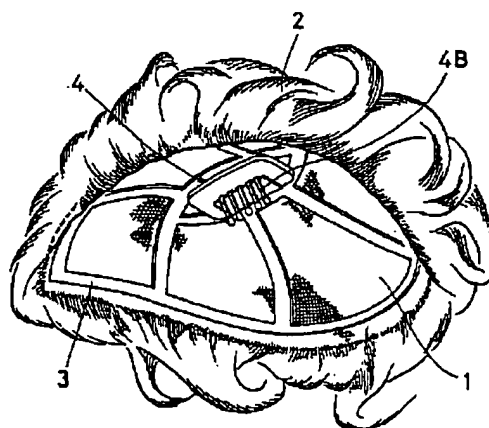
(71) 出願人 591056145  
フエザー株式会社  
大阪府大阪市城東区中浜2丁目9番12号  
(72) 発明者 加戸 喜八  
堺市堀上町124-4  
(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54) 【発明の名称】 かつら

(57) 【要約】

【目的】 頭の形状に沿うように湾曲した形状の柔軟性を有する素材によって形成した植毛用帽体に、毛を植えつけたかつらにおいて、固定用のヘアピンの数を少なくしても頭部にしっかりと固定することを可能にする。

【構成】 柔軟性を有する植毛用帽体に、弾性を有する枠骨を取付けることにより、ヘアピンの数を一つにしても植毛用帽体を枠骨を介して頭部にしっかりと固定することが可能となる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 頭の形状に沿うように湾曲した形状の柔軟性を有する素材によって形成した植毛用帽体に、毛を植えつけたかつらにおいて、上記植毛用帽体に弾性を有する杵骨とヘアピンを取付けたことを特徴とするかつら。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、頭髮の薄くなった部分を隠すために使用するかつらに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種のかつらは、頭の形状に沿うように湾曲した形状の植毛用帽体を、合成樹脂製のネット材や薄いゴム質の人工皮膚によって形成し、この植毛用帽体に毛を植えつけた構造になっている。

【0003】ところで、かつらというものは、装着状態が人に気付かれないということが非常に重要であり、強風が吹いた場合でも、植毛用帽体の周囲がめくれ上がり、装着位置がずれ動いたりしてはならない。

【0004】このため、従来は、植毛用帽体の内面にヘアピンを取付け、このヘアピンによって装着部分に残った自毛をはさみ、植毛用帽体を頭部に固定するようにしている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記のようにネット材等の柔軟な素材によって形成されている植毛用帽体を頭部から浮き上がらないようにしっかりと固定するためには、植毛用帽体の周縁部にヘアピンを所定間隔で多数取付ける必要がある。このため、かつらの装着の際に、多数のヘアピンを自毛にいちいち挟みつけなければならず、装着が甚だ面倒であるという問題がある。

【0006】また、植毛用帽体の周縁部に、多数のヘアピンを取付けることは、植毛用帽体の内面と頭部との間にヘアピンの厚みに相当する隙間があくことになるので、植毛用帽体が頭部にフィットせず、特に、前頭部の生え際部分が不自然になるという問題もある。

【0007】そこで、この発明は、ヘアピンの数を少なくしても、植毛用帽体を頭部にしっかりと固定することができるフィット性良好なかつらを提供することを技術的課題とするものである。

【0008】

【課題を解決するための手段】この発明は、上記の技術的課題を解決するために、植毛用帽体に、弾性を有する杵骨とヘアピンを取付けた構成としたのである。

【0009】

【作用】上記構成によると、柔軟な素材によって形成した植毛用帽体を、弾性を有する杵骨によって頭部にぴったりと沿わせることができるので、ヘアピンの数を一つにしても植毛用帽体を杵骨を介して頭部にしっかりと固定することが可能となる。

【0010】

【実施例】以下、この発明の実施例を添付図面に基づいて説明する。

【0011】この発明に係るかつらは、植毛用帽体1に毛2を植えつけたものである。

【0012】上記植毛用帽体1は、合成樹脂製のネット材やゴム質の人工皮膚などの柔軟な素材によって、頭の一部に沿うように湾曲した形状に形成されている。

【0013】上記植毛用帽体1の内面には、弾性を有する杵骨3が接着されている。この杵骨3を形成する手段としては、ステンレス鋼板や合成樹脂板を上記植毛用帽体1の内面に沿う形状にプレスした後、所要部分を打ち抜いて形成する方法や、合成繊維製のワイヤを熱溶着、高周波融着等によって順次接着して形成する方法がある。

【0014】上記杵骨3を植毛用帽体1に接着する手段としては、接着剤による方法の他、熱溶着、高周波融着等を用いることができる。

【0015】また、上記杵骨3には、少なくとも一つのヘアピン4が取付けられている。このヘアピン4としては、図面に示す実施例のように、反転性を有する基板4Aと櫛刃板4Bとによって毛をはさむ構造のものを使用することができるが、毛をはさみつけることができるものであればどのような構造のものでもよい。このヘアピン4を取付ける杵骨3の位置は、杵骨3の周囲が頭部にぴったりと沿うように、その中心付近が望ましい。このヘアピン4を杵骨3に取付ける手段としては、ヘアピン4の基板4Aを直接杵骨3に接着する方法の他、ヘアピン3の基板Aにカバー4Cをかぶせ、このカバー4Cを杵骨3に縫いつける方法が考えられる。

【0016】次に、上記のように構成されたかつらを頭部に装着する場合は、まず、図4に示すように、植毛用帽体1と杵骨3を中心部分を下方に押し込むようにして反転させる。この状態において植毛用帽体1と杵骨3は、弾性を有する杵骨3によって反転状態が保持されるので、この状態で位置合わせを行ない自毛を揃えてヘアピン4ではさみつける。次いで、反転状態の植毛用帽体1と杵骨3を、図3に示すように、元に戻すと、杵骨3がその弾性によって頭部にぴったりと沿う。この後、植毛用帽体1に植えつけた毛2をブラシ等によって整えれば装着が完了する。

【0017】

【発明の効果】以上のように、この発明によれば、柔軟性を有する素材によって形成した植毛用帽体を、杵骨の弾性力によってぴったりと頭部に沿わせることができるので、植毛用帽体の固定用のヘアピンの数を少なくしても、植毛用帽体を頭部にしっかりと固定することができる。

【0018】したがって、フィット性が良好で、装着が容易なかつらが得られるという効果がある。

3

4

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明に係るかつらを下方から見た斜視図

【図2】同上のかつらの下面図

【図3】同上のかつらの縦断側面図

【図4】同上のかつらを反転させて装着する際の状態を示す縦断側面図

【図5】ヘアピンを開じた状態を示す同上のかつらの部分拡大縦断側面図

【図6】ヘアピンを開いた状態を示す同上のかつらの部分拡大縦断側面図

【符号の説明】

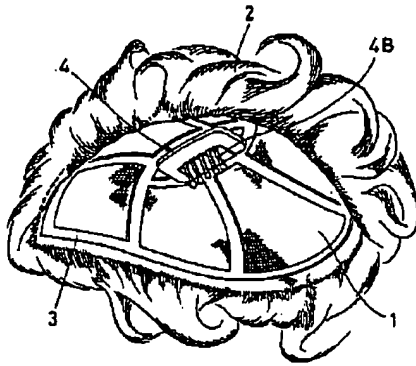
1 植毛用帽体

2 毛

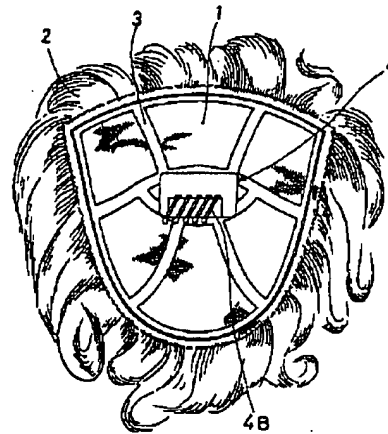
3 枠骨

4 ヘアピン

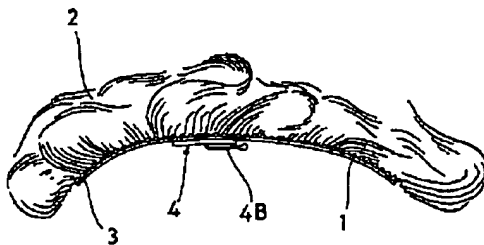
【図1】



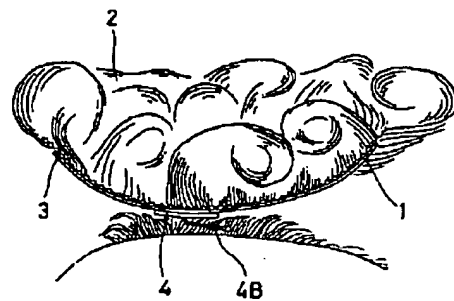
【図2】



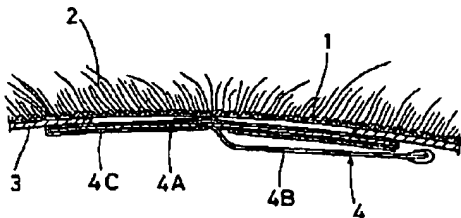
【図3】



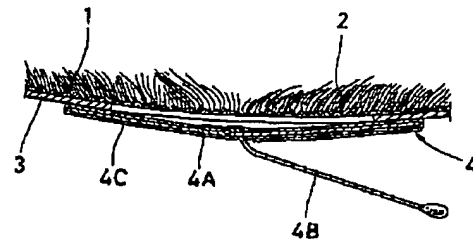
【図4】



【図5】



【図6】



PAT-NO: JP404214402A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04214402 A  
TITLE: WIG  
PUBN-DATE: August 5, 1992

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
KATO, KIHACHI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME  
FEATHER KK  
COUNTRY  
N/A

APPL-NO: JP03034202  
APPL-DATE: February 28, 1991

INT-CL (IPC): A41G003/00  
US-CL-CURRENT: 132/201

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a wig produced by planting hairs to a planting cap made of a flexible material having a curved form matching the form of a head and firmly fixable to the hair even with decreased number of fixing hair pins.

CONSTITUTION: An elastic frame bone is attached to a flexible cap for planting to enable the firm fixing of the planting cap to the head with the frame bone using single hair pin.

COPYRIGHT: (C)1992, JPO&Japio